

だがしや楽校@ドラマチック戎市

By 自然農食やまがたよもぎの会

日時：2011年6月12日（日）10:00～15:30

場所：山形県米沢市鞆町通り商店街

《はじめに》

はじめに、NPO法人“自然農食やまがたよもぎの会”と“ドラマチック戎市”について、ご紹介しましょう。

《NPO法人自然農食やまがたよもぎの会》

特定非営利活動法人（NPO法人）自然農食やまがたよもぎの会（以下「よもぎの会」と表記します）（理事長：増田勇一氏）は、山形県米沢市に事務所を置き、平成20年に設立しました。

よもぎの会は、有機農業による野菜販売の指導、高齢者の雇用拡大支援を主力にして、活動を行っています。農薬や化学肥料を使わない、畑に優しい水づくり・土づくりを繰り返して、野菜を育てることにこだわり、安心・安全な、そして新鮮で美味しい野菜を食べていただくことで、健康な身体づくりのお役に立ちたいと活動しています。

平成22年4月には、厚生労働省の雇用緊急支援事業として、山形県で初めて、就農支援事業を申請し、有機栽培研修事業として受理されました。そして、同年5月には、中央職業能力開発協会より認定され、研修を開始しました。

このように、よもぎの会は、有機農業にこだわりながら、就農（雇用）支援に取り組むという先駆的活動を行っています。

高畠町には、研修用農園があるほか、今年からは直売場の営業も始めました。

よもぎの会は、広くネットワークを持っています。そのひとつが、仙台市のNPO法人ワンファミリー仙台です。ワンファミリー仙台は、ホームレスの自立を支援する活動を行っています。

2011年3月11日、東日本大震災が発生します。

大震災後、僅か3日目にして、よもぎの会は、被災地である仙台市に赴き、野菜を届けるなどの支援活動を行います。米沢市では最も早く支援活動を行ったものと思われます。

NPO法人ワンファミリー仙台とのネットワークが構築されていたことにより、被災地が必要としているものをいち早くキャッチし、それに応える形で野菜などを提供します。被災地と連携

した明確な支援活動であることから、米沢市でも被災地支援車両と認定し、この当時は米沢市でも極端なガソリン不足に陥ったにもかかわらず、優先してガソリン供給を受けることができ、仙台に赴くことができたのです。

よもぎの会の支援活動は週1回ペースで続きますが、活動していく中で、支援物資を届けるだけでなく、そこに遊びがあったり、人と人が交流できる場があれば、被災者、特に子どもたちを少しでも元気付けることにつながるのではないかと、ということがわかってきました。

そこで、よもぎの会・スタッフのHさんは、山形県置賜地域のNPO中間支援組織・おきたまネットワークサポートセンター（おきさぼ）を訪ねます。その時に“おきさぼ”が紹介したのが“だがしや楽校”であり、私（山口）でした。

早速私（山口）は、よもぎの会の事務所に出向き、“だがしや楽校”について説明しますと、増田理事長をはじめ、よもぎの会の皆さん“だがしや楽校”に強く共感されます。その共感ぶりは半端ではありません。

例えば、私も何度か呼ばれて説明することになりました。納得するまで話を聞いたのです。また、当時（2011年4月）山形市内で毎週土曜日開かれていた東日本大震災チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”を4人で見学されるほどでした。

そして、「まずは実践」ということで、“ドラマチック戎市”にておみせを出し、“だがしや楽校”を開くことにしたのです。

5月22日、今年（2011年）第1回目の“ドラマチック戎市”で初めて“だがしや楽校”を開きました。この時私は、別の取材活動があったため、立ち会うことができませんでしたが、それでも、開き方について助言したり、“だがしや楽校”の幟をお貸しするなどのサポートを行いました。

そして、2回目の“だがしや楽校@ドラマチック戎市”がこの日開かれたのです。

午前中、山形市での“楽描きだがしや楽校”を取材した私は、終了後直ちに米沢へ向かい、なんとか“だがしや楽校@ドラマチック戎市”を取材することができました。

《ドラマチック戎市》

米沢市の市街地商店街のひとつが“鞆（あら）町通り商店街”です。鞆町は市街地でも北部に位置し、米沢駅からも遠い場所です。しかし、私が生まれ育った場所から近かったこともあり、子どもの私には、立町商店街と共に、米沢市内で最もにぎわっていた商店街に見えました。

鞆町通り商店街もご多分に漏れないのですが、それでも、にぎわいを取り戻すため、元気に活動している商店街です。

その鞆町通り商店街にて開かれているのが“ドラマチック戎市”です。

鞆町通り商店街のほぼ中央にある神社を“西宮戎神社”と言いますので“戎市”と言います。

“ドラマチック戎市”は、商店街のにぎわいを再生するイベントですが、目玉は「市民が主役の路上大テント市」です。よもぎの会が“だがしや楽校”で出店できたのは、このためです。

“ドラマチック戎市”は、年数回、季節の良い時期に開かれています。今年は4回開催予定です。だいたい、日曜日の10:00~15:30まで開かれています。この時間帯は、車両通行止めになります。

この日が第33回“ドラマチック戎市”でした。

“ドラマチック戎市”では、サンバカーニバルなど呼ぶなど、華やかなイベントが行われるのも特徴ですが、これについては、いろいろな意見があるようですが、それでも市民にとっては、普段見ることができない興行物を見ることができる貴重な場です。今回は、アマチュアプロレスがやってきました。

主催は米沢商工会議所、主管は桐町通り商店街です。つまり、桐町だけのイベントではありません。拝見していると、桐町以外の人たちも、スタッフとしてがんばっておられました。



2011年6月12日（日曜日）晴れ時々薄曇り時々曇り

【ドラマチック戎市】

午前中の山形市での“楽描きだがしや楽校”の取材後、米沢に戻って会場に着いたのは午後2時前。この時間帯になりますと、イベントによっては、人出が落ち着くこともあるのですが、この日の会場はまだまだ大にぎわいです。

それでは、“ドラマチック戎市”の様子から、写真でご紹介しましょう。



会場の桐町通り商店街は、交通止めにして、歩行者天国です。そこにたくさんのテント屋台が建ち並んでいます。

食の屋台が多いのですが、小物、アクセサリ、米織、エコ本屋、手作り雑貨、射的などいろんな屋台があります。

がんばろう福島の屋台もあります。

右の写真の右側にちょっと見える緑色のテントが“よもぎの会”のテントです。その向かいには“米商っぷ”の屋台も見えます。



西宮戎神社前では音楽ライブが行われていました。天地人ミニコンサートです。オールディーズを中心に演奏しています。



写真に写っている“エビスヤ”は、映画“スウィングガールズ”のロケ地になった場所です。

おやおや、音楽につられて“かねたん”と“けーじろー”が踊り出しました。

“かねたん”は直江兼続を、“けーじろー”は前田慶次をモチーフにしたゆるキャラです。

前田慶次は今年が400回忌で、この6月4日には、米沢市内の善光寺で供養祭が営まれ全国から慶次ファンが集まりました。



“山形おきたま【愛】の武将隊”による演武も披露されました。

“山形おきたま【愛】の武将隊”は、置賜・山形をもてなしの心でPRするために、昨年（2011年）7月結成されました。当初は5人でしたが、今年4月には9名にパワーアップしました。メンバーは、直江兼続や前田慶次など上杉側だけでなく、最上義光ら上杉と戦った武将もおります。それに伊達政宗もメンバーです。さ演武では、長谷堂城の戦いを再現します。



商店街の駐車場では、SEDアマチュアプロレス（福島市）が催されています。

アマチュアなのにプロレスとは・・・という突っ込みはさておき、SEDアマチュアプロレスは2003年に旗揚げしました。写真はドロップキックが炸裂する瞬間です。



山形大学のジャグリングは、特に子どもたちに人気です。



時に失敗するシーンもありましたが、それが逆に子どもたちを楽しませていました。

通りを練り歩くのは上郷エイサーです。



米沢市と沖縄市は姉妹都市です。上郷地区は米沢市街地の東側郊外に位置しますが、地域活動が盛んで、沖縄の演舞であるエイサーを取り入れ、上郷エイサーとして披露しています。会場には太鼓の音が響き渡ります。

私が取材できなかつた催しで注目されたのは、奥州・相馬馬りょう太鼓でした。南相馬市から飯豊町へ避難されている人を中心に協友会のメンバーが関東や東北各地の避難先から集結し、この日の演奏となりました。

ほかにも盛りだくさんのイベントが催され、大勢の市民、それに福島県からの避難者でにぎわいました。



【だがしや楽校@ドラマチック戎市 By 自然農食やまがたよもぎの会】

こちらが“だがしや楽校”を開いた“自然農食やまがたよもぎの会”のブースです。



手前で野菜や苗木などを販売し、奥は魚釣り遊びのコーナーにしました。

販売されている野菜は、いずれも無農薬で栽培した野菜ばかりです。

「スーパーで売られている野菜とはひと味もふた味も違います。スーパーでは売られている野菜を消費者が買います。でも、ここは消費者が選んで買うことができます」とスタッフの方は言います。



だから、そこに駄菓子屋さんと同じようなお客さんとの会話が生まれます。

次々にやってくるお客さんに対して、丁寧に、そして自分たちの思いを込めて説明していく内に、お客さんとのコミュニケーションが育まれます。こういう風景は、スーパーでは見られません。本当に自信のあるモノを販売しているから、お客さんとのつながりができます。



私（山口）は水菜とレタスをいただきましたが、シャキッとして本当に美味しいです。



苗木やトマトの鉢植えも飛ぶように売れていました。

子どもたちのお楽しみは魚釣りゲームです。お魚はよもぎの会のメンバーによる手作りです。



意外に子どもたちは積極的に遊びました。親子連れも多かったのですが、ほとんどはお子さんに誘われ、おとうさん・おかあさんもいっしょに遊んだそうです。やっぱり子どもたちは遊びのプロです。

向かい側で屋台を出している“米商っぷ”の高校生が遊びに来られました。(右の写真)

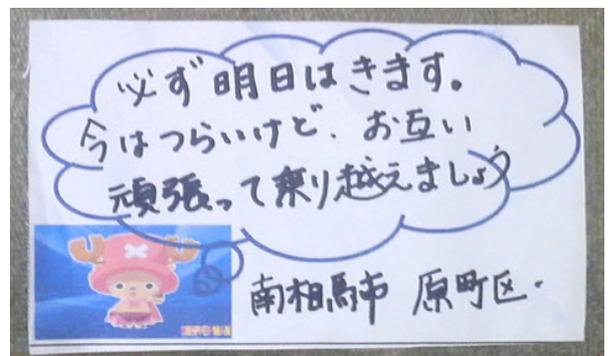
米沢商業高校では、高校生に実際の商売を体験し、学んでもらうことを目的に、地域のイベントなどで“米商っぷ”(よねしょっぷ)を開いています。



ところで、“よもぎの会”では“だがしや楽校”で遊んでくれた人、野菜などを買ってくださった人にメッセージを書いてもらいました。そのひとつがこの写真です。

南相馬市から避難された人からのメッセージです。

避難された人たちは、どんな思いで米沢にて過ごされているのでしょうか。そう思うと心が痛みます。それでも、こうやって“ドラマチック戎市”にお越しいただき、少しでも楽しんでもらうことができれば、私もホッとします。



“自然農食やまがたよもぎの会”にとって、この日が2回目だった“だがしや楽校”。

スタッフの人たちは試行錯誤されており、私にも次々に質問されます。確かに「こうした方が
良いかな」と思うことはありましたが、答える時に気を付けたのは「楽しく、気楽にやりましょ
う」です。そして「この気持ちで、まずは実践しましょう。そして、続けてやりましょう」です。

はじめはお客さん1人でも良いのです。続けることで次第に、次第に地域の人たちに定着して
きます。

また、このようなイベントだけでなく、いろんな場所で“だがしや楽校”を開くように助言し
ました。よもぎの会では、高畠町に直売場を設けました。であれば、そこで“だがしや楽校”を
開いてみては、と助言したのです。

この日は、草木を使っての遊びも考えたのですが、結局はできませんでした。

なぜなら、“ドラマチック戎市”という会場がそういう雰囲気ではなかったことです。よもぎの
会のブースにも音楽ライブの大きな音がガンガン流れてきました。

また、ブースには「草木を使っての遊びができます」という表示もありませんでした。

“ドラマチック戎市”はイベント性が強いだけに、私としては、いろんな場所で“だがしや楽
校”を開くことをアドバイスしたわけです。

こういう助言活動も“だがしや楽校”普及事業では大事な活動になります。

“だがしや楽校”を理解され、強く共感されている“自然農食やまがたよもぎの会”のこれか
らの活動はおおいに注目です。地元・米沢ということで、私も精一杯支援していきたいと思っ
ております。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター